

Fukushima und die deutsche Energiewende

福島とドイツのエネルギーシフト

Riho
のドイツ
便り☑

No. 80



©Franz Renz

ごみかんドイツ特派員

田口 理穂

「日本は一夜にして脱原発した。 あとは正式に決定するだけ」

3月9日、ハノーファーから60キロほど西のブラウンシュバイクで、講演会『福島とドイツのエネルギーシフト』が開催され、私はドイツ在住のジャーナリストという立場で、福島について話をしました。

他に、シェーナウ電力会社(EWS)のエネルギー専門家エヴァ・シュテューゲン博士(写真真ん中)と、ベルリン自由大学のミランダ・シュラース教授(写真左)も登壇し、女性3人による講演会となりました。

ミランダさんはアメリカ人で2007年よりドイツ在住。ベルリンの環境政策研究所所長であり、メルケル首相が福島原発事故のさい設置した「安全なエネルギー供給に関する倫理委員会」のメンバー17人のひとりでした。

ドイツ人には理解されない 「食べて応援キャンペーン」

最初に私が、事故から4年経ち家族やコミュニティーが断絶された福島の実状や福島に残った人たちの葛藤について報告しました。

中でも「食べて応援」はドイツの人をぎょっとさせました。2000キロ離れたチェルノブイリ原発事故の際、ドイツでもキノコや牛乳から放射能が検出されたので、事故炉から数10キロ範囲の農産物を食べるなんてもってのほかという反応です。

農家には東電が補償すべきで、万が一でも被ばくの恐れがある行為を、政府の関連団体が推進するなんて理解できません。自分の体を危険にさらしてまで食べることにどういう意義があるのか。これが援助なのか。ドイツ人の反応は、ストレートでもっともだと思えます。命あることが大前提だからです。

イギリスの原発新設に反対!

続いて、シェーナウ電力会社(EWS)のエヴァさんの話です。南ドイツの黒い森にあるEWSは、1986年のチェルノブイリ原発事故をきっかけとした反原発運動から生まれました。

2回の市民投票を経て、シェーナウ市への電力供給権

を獲得。寄付と投資を募り、配電線を買取り、会社を設立しました。組合制の会社で、24000人の組合員が出資。1998年の電力市場自由化により、現在では16万人に再生可能エネルギーの電力を届けています。ガスは南ドイツのみで供給していましたが、この3月から全国に供給を開始しました。

EWSはイギリスの原発建設にEUが補助金を出すことに反対しており、決定取り消しを求めて手紙を書こう運動を実施。すでに6万5000人が参加しました。イギリスは経済性がないのに、買取り価格を保証してまで電力会社に原発を建てさせようとしています。こちらがキャンペーンのサイトで、動画がユニークです(ドイツ語)。
<https://www.ews-schoenau.de/kampagne>。

エヴァさんは、市民参加による地域分散型発電を広範囲にわたってスマートグリッドで結ぶのが理想とのことで、「高压送電線はいらないし、孫の代まで負担をかけない。リスクが最小限に抑えられる」と話しました。

エネルギーシフトは 市民の活躍があってこそ

続いてベルリン自由大学ミランダさんは、ドイツのエネルギーシフトは成功であり、市民の活躍が大きかったと言います。そして昨年の再生可能エネルギー法改正により、市民参加にブレーキがかかることを危惧しています。ミランダさんの話の要点をまとめました。

≡ドイツの脱原発はデモクラシーの歴史

70年代より反原発運動があり、緑の党が生まれた。1983年に緑の党が国政に入った意味は大きい。当時反原発を唱えていたのは緑の党だけ。原発大国フランスでも緑の党や反原発運動があったが、ドイツのようにはなかった。

ドイツでは社会民主党(SPD)を巻き込むことができたのが大きい。SPDと連立政権を組んだことで、与党として影響力を発揮した。

≡倫理委員会で原発を考える

倫理委員会で「福島事故はドイツにとってどういう意味があるのか」ひいては「原発を持つ社会のあり方」について考えた。

安全なエネルギーとは何か。再生可能エネルギーであり、エネルギー効率化である。「代替エネルギーがあるのに、危険性を100%排除できない原発に固執する必要はない」との結論に達した。倫理とエネルギーになんの関係があるのかと、よく日本人に聞かれるが、原発は技術だけの問題ではない。

≡ドイツの再生可能エネルギー

2014年、電力の4分の1は再生可能エネルギーだった。1990年は3%だったから8倍になり、日によっては50~75%をまかっている。しかし2週間太陽が出ず、風が吹かないときがある。2週間蓄えられるシステムをつくる必要がある。

ドイツはウランや石油、ガスなど資源を輸入に頼っている。今変わらなければチャンスはない。ドイツの将来がかかっている。

≡原発の将来

原発は現在、世界の電力の8%を占めているが、老朽化しこれから減るばかり。ドイツの脱原発決定は、原発保有国には不人気だ。だからといって、まだ原発を持っていない国に、新たに勧めるべきではない。これまでなしでやってきたではないか。

≡風力発電に反対している人をどう説得するか

まず本人に「他にアイデアがあるか」聞いてみる。投資に関われば経済的利点があるなど、別の面を知ると考えが変わることも。

風車やソーラー設備を建ててエネルギー村とすることで、地域振興につながり雇用が生まれる。環境について意識的になること、教育も大事。

≡日本のFIT制について

失敗したのは買取価格を高く設定しすぎたせい。高くしたのにはふたつの理由があると思われる。①早く再生エネを増やしたい ②「やっぱり再生エネは高い」と人々に思わせる。さて、どちらだろう。

≡日本のエネルギーシフトの未来

都市が多いから、スマートグリッドやスマートメーターを使ったスマートシティ構想が鍵。再生可能エネルギー導入はもちろん、エネルギー消費を見直す必要がある。



新しい技術をどのように都会で活用するか、省エネにつなげるか。カーシェアリングもそのひとつ。

市民電力が生まれるなど、ここ数年の日本のみなさんのがんばりは素晴らしい。すぐに社会を変えられなくても、アイデアを出し、あきらめないで続けてほしい。

最後に聴衆のドイツ人から「日本では原発が 54 基すべて停まっているのに、どうやって電力をまかなっているのか。発電所を新設したのですか」という質問がありました。「発電所の新設はしていません。けれど電力は足りているんです」と答えたら、みなびっくり。

ミランダさんは「フランスなら原発で事故が起こっても、電力不足のため全部は止められないだろう」と話し、「世界は日本に注目している。日本が正式に脱原発を決めたら、ドイツの勝ち。ドイツが目指している原発のない世界への大きな一歩になる。脱原発の達成…日本とドイツとどちらが早いかな?」と言います。

日本ではすべての原発が停まっており、ミランダさんの言う通り一夜にして脱原発できることを証明しました。あとは本当に脱原発を決めるだけです。そう考えると日本ですごいとか、おかしいとか、本当に不思議な国。「これまであったものを守ろうとしては、未来モデルはつくれない」とミランダさんが結びました。

講演が終わって

ドイツ語での講演で少し不安でしたが、始まってみると女性 3 人のパワーが溢れる催しとなり、楽しかったです。

日本には「原子力村」という言い方があります。エヴァさんはこれを『「エネルギー村」みたいに柔かい表現で日本らしいネ。ドイツなら『アトムマフィア』と呼ぶわ!』とエヴァさんが言い、みんなで笑いました。エヴァさんはエネルギーで熱い!

ミランダさんは存在感があり、深い知識を持って全体像をつかんでいる感じ。「ドイツのエネルギーシフトは成功であり、エネルギーの新しい未来つくるのはわくわくすること」というポジティブなメッセージを発信しています。反対の人の声にも耳を傾け、別の視点から静かに話をしていく姿勢にも感心しました。日本語堪能でユーモアと気配りがあり「できる人はなんでもできる」という見本のような人。3 月半ばにも講演旅行で日本にいたとのこと。

最後にシェーナウ電力会社の創始者スラーデク夫妻について。二人は日本に招待されていますが、二度と飛行機に乗らないと決めているそう。列車で行くのが真剣に考えたそうですが、遠すぎると断念。日本にもファンが多いのに残念です。

ドイツで子育て



子どもミュージアムで火星についての話を聞く



3 月 14 日にハノーファーで反原発の催しがあり、7 歳の明と行きました。そこで明は初めて福島原発が爆発する映像を見ました。日ごろほとんどテレビを見せていないので、強烈だったみたい。

2011 年以降ドイツ語のラジオで福島のことをときどき聞き、当時は「福島」という言葉を「危険」と同義語だと認識。道路を渡る時「危ないね」という代わりに「ここは福島だね」と言ったりしていました。

今回映像を見た明は、どうして爆発したのか、なぜ爆発しても大丈夫なように地下 100 メートルのところ原子炉を作らなかったのか、冷蔵庫が 100 個あれば冷やせるのか、といろいろな質問してきました。

「もう周りには人が住めないんだよ」と話すと「どうしてそんなものをつくったの?」と。素朴な疑問が一番真髓をついています。ちなみに催しの参加者は 100 人程度。昨年までは何千人と集まったのに。新聞での特集も小さくなった気がします。ドイツはすでに脱原発を決めたから、デモの必要はないという人もいますが…。